同志社大学
新型コロナウイルス感染症に関する緊急研究課題プロジェクト
（COVID-19 Research Project）

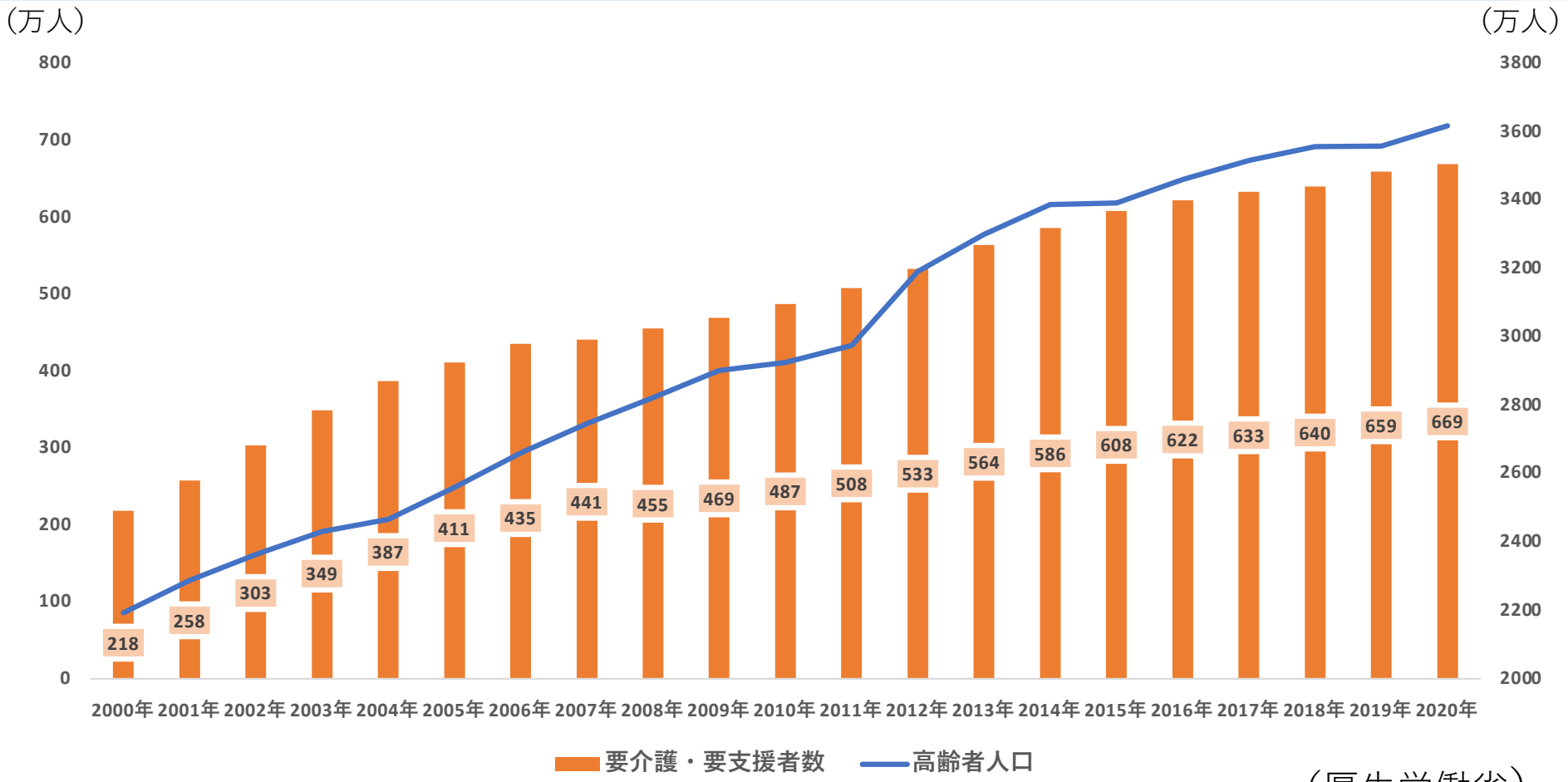
新型コロナウイルス感染拡大が京都市における地域在住高齢者の健康づくりに及ぼした影響

Impact of the COVID-19 Pandemic on health promotion activities of community-dwelling elderly adults among Kyoto City.

同志社大学スポーツ健康科学部 教授
石井好二郎

Ishii Lab.
Doshisha University
Health and Human Performance Laboratory

背景（我が国の高齢化）



（厚生労働省）

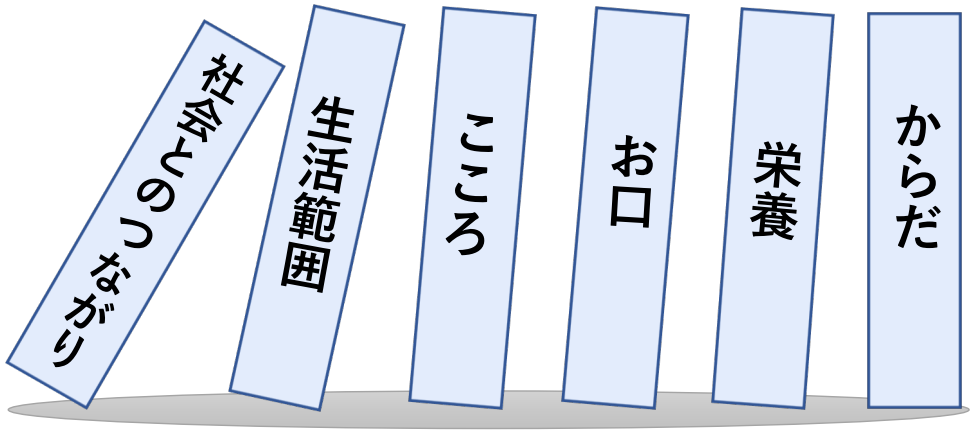
高齢者数の増加に伴い，要介護・要支援者数も増加している
医療経済学的観点においても，高齢者の健康寿命の延伸は我が国の課題

背景（社会活動の必要性）

高齢者の介護予防の手段として社会活動への参加が推奨されている

・社会グループに「参加していた」高齢者は「参加していなかった」高齢者に比べ 9.4 年後の要介護 2 以上の認定リスクが 0.82 倍，死亡リスク0.78 倍（近藤ら，2016）

・スポーツの会や趣味の会に「週 1 回 以上参加していた」高齢者は「全く参加していない」高齢者に比べ，調査後 11 年間の介護期間が短く，介護費用も低い（斎藤ら，2019）



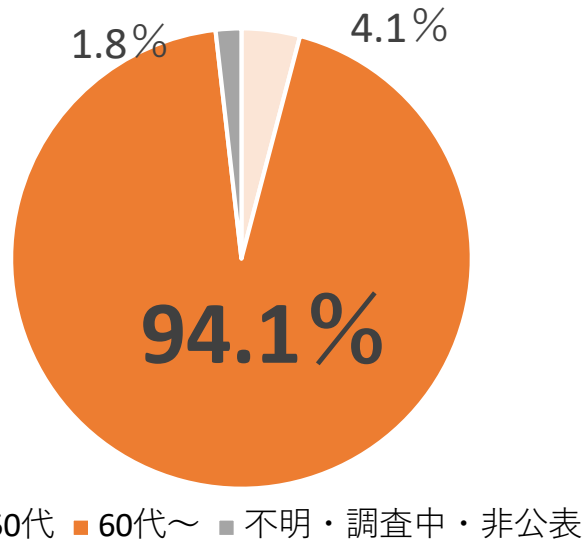
フレイルドミノ

しかし

2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症により
高齢者の社会活動量に変化

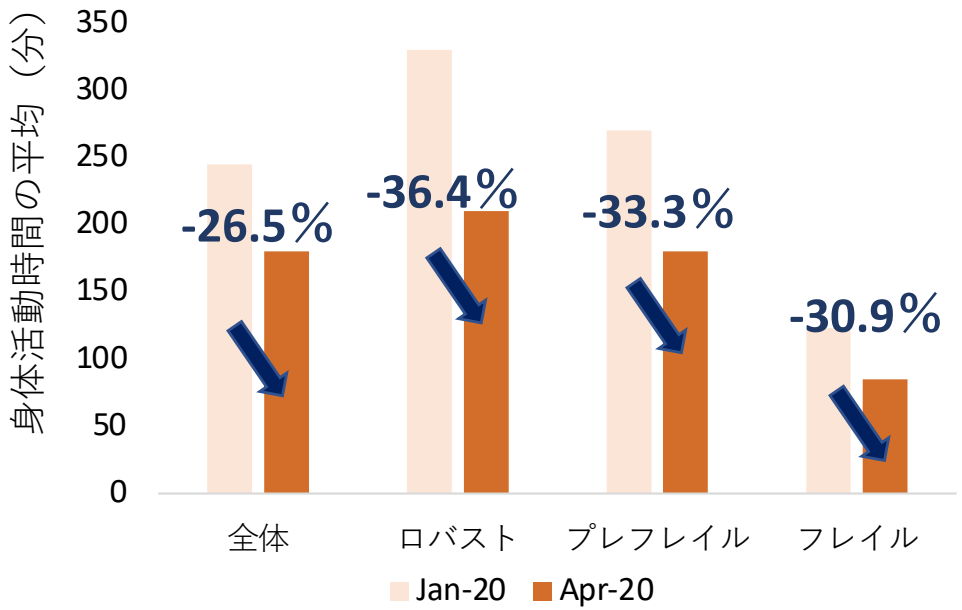
背景（新型コロナウイルス感染症と高齢者の関係）

①新型コロナウイルス感染症は
高齢者が重症化しやすい



新型コロナウイルス感染症による年代別死亡者の割合
（厚生労働省　-新型コロナウイルス感染情報-をもとに作成）

②新型コロナウイルス感染症の影響を受け
高齢者の活動量は減少している



健康状態別の高齢者の日常生活操作時間
（山田ら，2020をもとに作成）

高齢者は外出自粛の影響を受け，生活不活発状態が進行している

本研究について

- **新型コロナウイルス感染症が京都市の社会活動の場として機能している高齢者サロンの実施状況にどれだけ影響を及ぼしているかを調査**
- **新しい生活様式での持続可能な社会活動の政策提言を行う**

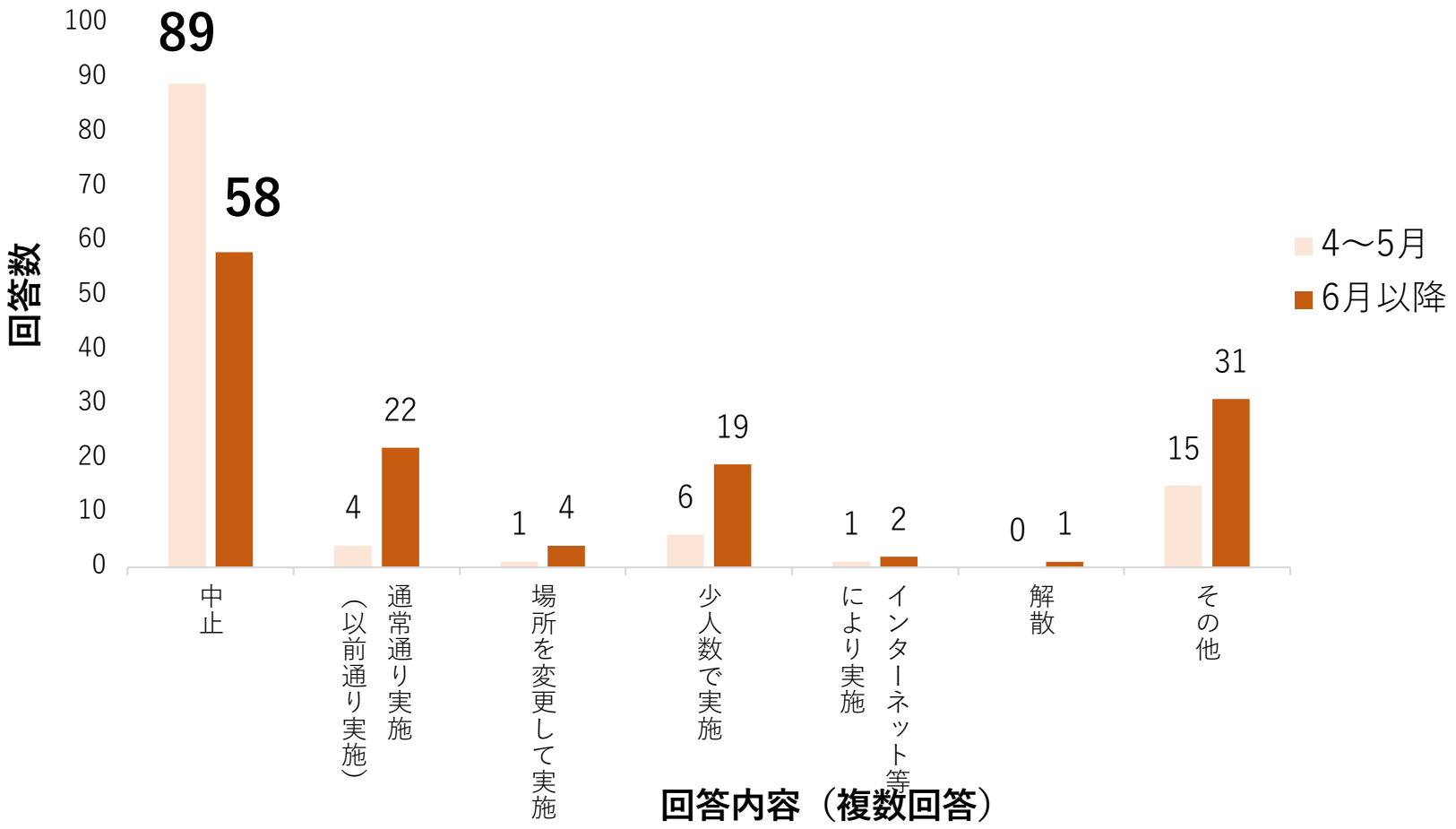
対象：京都市の高齢者サロン147か所（回答数100か所）（高齢者サロンガイドブック）
京都市の地域介護予防推進センター12か所（京都市情報館HP）

方法：質問紙調査（郵送法）

質問項目：所在地
4～5月（緊急事態措置実施期間中）の実施状況
6月（もしくは緊急事態宣言解除後）以降の実施状況
6月（もしくは緊急事態宣言解除後）以降の再開に対する問題点

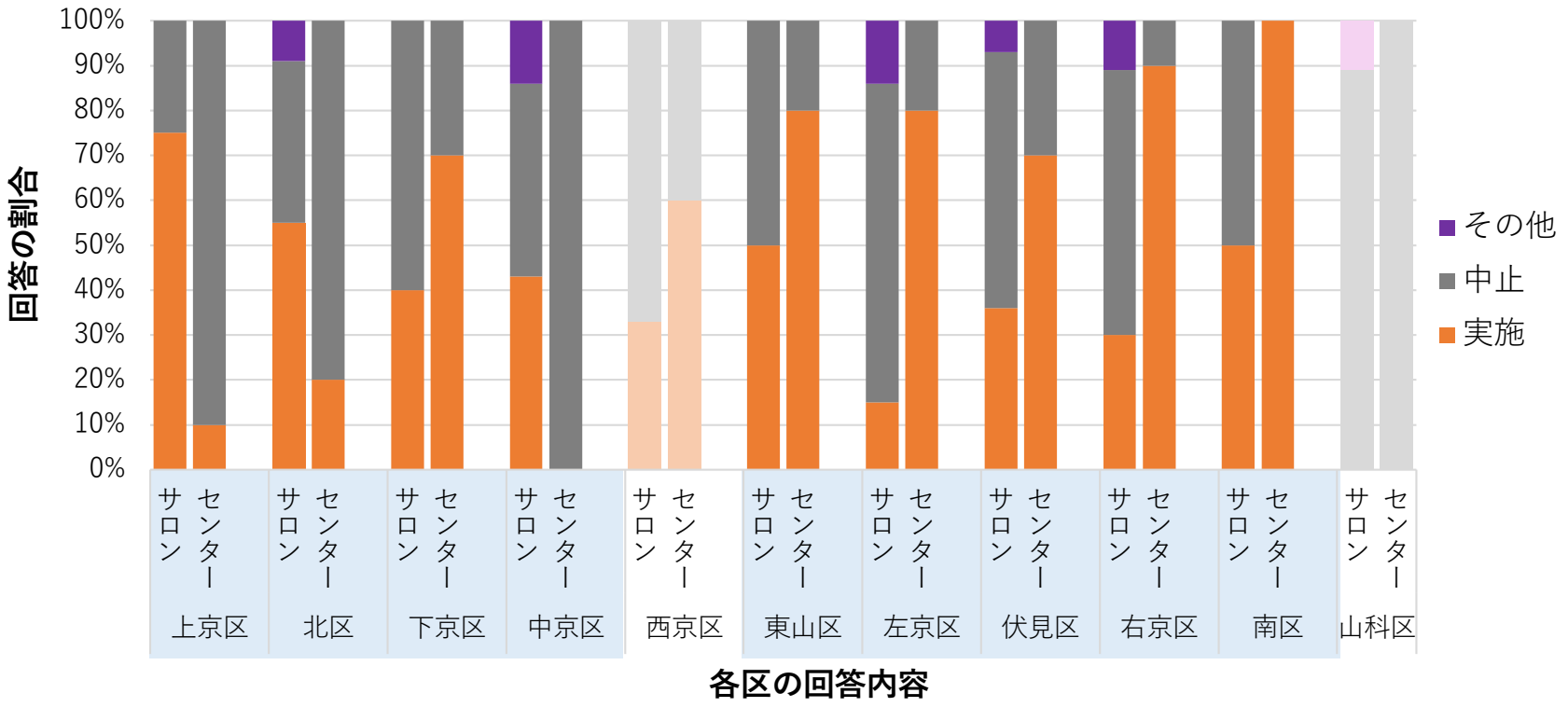
※各項目には自由記述の回答欄も設置した

結果（サロンの実施状況）



4～5月は89％がサロン活動を中止しており
緊急事態宣言解除後の6月以降も半数以上が中止してる

結果②（6月以降のサロンとセンターの実施状況の比較）



区によって，サロンとセンターの実施状況に差がある

考察（サロンとセンターの意思の違いによる問題）

サロンとセンターの開催の違い

＋

記述回答の多くに
「**会場としていた施設が立ち入り禁止となった**」
「**高齢者施設のため利用不可**」という記述が複数見られた

↓

センターや行政などが所有している会場を使用していたサロンは
開催への意思の違いにより活動が行えないという問題が生じている

行政，センター，サロンの連携を強化し
サロン活動開催への意思を統一することが大切

考察（ICTの応用）

インターネット等の電子機器を利用した活動の推奨が行われている
70代でも46.7％はインターネットを使用（総務省　令和2年情報通信白書）

国立長寿医療研究センター
「オンライン通いの場」

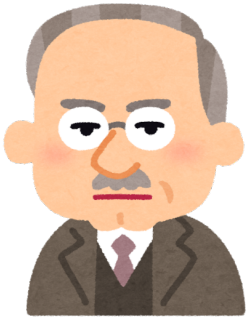
厚生労働省
「地域がいきいき集まろう！通いの場」

物理的距離を確保しながら社会的距離（社会とのつながり）を維持するために
ICTの応用は一つの手段となりうる

結論

・新型コロナウイルス感染症は高齢者サロンの開催に大きな影響を与えている
・サロン，センター，行政が一体となって新しい生活様式のもと
高齢者が安心して参加できる社会活動を考案していく必要がある

心理学者Paul Baltesが唱えた「SOC理論（選択的最適化理論）」



選択 (selection)　自分たちの目的を改めて選択
最適化(optimization) 限られた選択肢の中で資源の最適化
補償 (compensation) 助けを利用し活動に修正

自分たちのサロンの本来の活動目的を見直し
限られた場所，方法の中でどのような活動を行うのが最適かを考え
行政や他のサロンと連携しながら活動を構築していくことが求められる

ご清聴ありがとうございました